

途上国アルバム：中央アジアの国々(キルギス共和国、ウズベキスタン、タジキスタン)

中沢賢治

1. キルギス共和国

2007年秋から2011年の夏までキルギス共和国の首都ビシュケクで勤務しました。1990年代にはロンドン本部から何度も出張していました。わたしにとって中央アジアとの出会いとなった国です。カザフスタン国境に近いタラス地方の送電線網のリハビリ工事案件のチーム・リーダーでした。タラスは751年の夏に唐とイスラム帝国アッバース朝が中央アジアの覇権をめぐって激突した古戦場です。現地の部族がイスラム軍側についたため3万の唐軍は大敗し、中央アジアはイスラム勢力圏となりました。元の時代を除くと険しい天山山脈を隔てた新疆地方までが中国王朝の勢力圏となりました。キルギス共和国は山と湖に囲まれたとても美しい国です。

タラス溪谷



ユルタ(移動式の天幕)



羊飼いと羊の群れ



イシク・クル湖と天山山脈



2010年4月7日の政変に遭遇したのは忘れられない記憶です。ビシュケクの大統領官邸前で大規模な騒乱となりました。その晩は自宅で不安な夜を過ごし、翌日から地元の知人の家に避難しました。2008年の金融危機の後、ロシアやカザフスタンに出稼ぎに行った働き手からの送金が減少しました。冬の厳しいキルギスでは暖房に費用がかかり、春先は生活が厳しくなります。こうした状況で2010年初めに電気、ガス、電話など公共料金の値上げが発表され、大統領周辺による国有企業の私物化のニュースが決定打となって、人々の政府に対する不信感は高まり、爆発しました。

ユルタ(天幕)の内部



クムトー金山付近の氷河



2010年の政変



赤いヒナゲシの花



2. ウズベキスタン

1999年4月に旧ソ連の4番目の大都市だったタシケントに赴任しました。ケーラーEBRD 総裁(その後、ドイツ大統領)の訪問に随行してチムール帝国の古都サマルカンドを訪れました。アフロシアブの丘に保存されている壁画に古代の東西交渉の様子が描かれています。中央アジアがアレキサンダー大王の遠征地であったことをしのばせる遺跡です。大王は古代バクトリア(現アフガニスタン付近)の王女オクサナをお妃にしたそうです。街角には大鍋でプロフを作って売っている店があります。羊肉の炊き込みご飯です。炊き上がりに鍋底の脂を全体にかき混ぜます。炊き上がり時間を待って、あまり脂を混ぜない所を分けてもらおうと和風になります。羊肉の串焼きと並ぶ代表的なご馳走です。

アフロシアブの壁画



サマルカンドのタイル



ブハラのマドラサ



タシケントのプロフ鍋



タシケントは天山山脈のふもとのオアシス都市です。夏には 45 度を越す陽光のおかげでバザールに出まわるスイカ、メロン、トマトなどが素晴らしい。道端に鉄パイプのベッドをおいてスイカの山を売る人たちの姿が夏の風物詩です。春のサクラや杏子の花、夏のバラやグラジオラスもきれいです。水の管理は中央アジア全体の課題です。旧ソ連時代の綿花栽培で灌漑に水を使い過ぎたことが、大河が流れ込んでいるアラル海の縮小と環境被害につながったのは残念なことです。

ヒバの踊り子たち



ヒバの遺跡



サマルカンドの市場



アラル海の船の墓場



3. タジキスタン

パミールの山々



同左



フジャント空港にて



同空港近郊



タジキスタンは世界の屋根パミール高原の西側に位置する山国です。険しい山嶺でフジャンドを中心とする北部とドシャンベを中心とする南部に分かれています。パミール高原、ヒンドークシ山脈に源を發して、アラル海に南から入るのがアムダリヤ川、天山山脈に源を發してアラル海に東から入るのがシルダリヤ川です。この二つの大河に挟まれた地域はソグディアナと呼ばれていました。タジキスタンの人々はファルシ（ペルシャ語）を話します。中央アジアがペルシャ帝国の東端だった時代の名残です。北部のフェルガナ渓谷周辺の国境線は複雑に入り組んでいます。フジャントにはタシケントから車で訪れる方が近いので、農産物加工や空港整備のプロジェクトのモニタリングのために何度も通いました。

シルダリヤ川



イスマイル・サーマニー像(ドゥシャンベ) フジャントの果汁加工場



トマトピューレの瓶詰め



中央アジアは中国側からは「西域」と呼ばれ、オスマン・トルコが勢いを持った時代には「トルキスタン」と呼ばれました。19世紀末から20世紀初頭にかけて中央アジアが地政学上の要衝であったことがピーター・ホップカークの「ザ・グレートゲーム」という本に描かれています。旧ソ連の成立以来、1991年の崩壊までは中央アジアの国々の名前が世界地図上から消えていた時代でした。中央アジアの友人が読んでいたのが、シルクロード地域を愛した井上靖さんの小説です。短編集「崑崙の玉」にはタジキスタンが登場します。昭和18年に出版された松岡譲著「敦煌物語」を読んで感激したことが、名作「敦煌」の執筆につながったわけです。漱石門下の松岡氏は旧制長岡中学の大先輩です。明治35年（1902年）から始まった第一次大谷探検隊のメンバーとして、仏教研究をリードした藤井宣正氏も母校の大先輩でした。わたしの郷里長岡とシルクロードには様々な関わりがあって面白く感じます。